

提言書

熊本市長様

私たちは、知的障がい児(者)本人と保護者・支援者で作る熊本市手をつなぐ育成会です。昨年4月の熊本地震では、障がいのある人やその家族はその特性から避難所をはじめ、あらゆる生活の場面で大変な思いを経験しました。

そこで、近い将来日本のどこかで必ず起こると言われている大地震に備え、知的障がいや発達障がいのある仲間たちや家族が私たちと同じような思いを経験しないで済むように下記のように提言をいたします。

記

- 一、一次避難所には必ず障がい者用のスペースを設け、近隣住民の方々にも日頃より協力をお願いするなど周知を徹底してください。
- 二、県及び国立大学法人と協議の上、市内にあるすべての特別支援学校を二次避難所に指定し、少なくとも在校生とその家族だけは、優先的に避難できるようにしてください。
- 三、障害者差別解消法に則り、平等という名の下で差別されることのないよう、避難所を統括する自治会や学校長への障がい者に対する合理的配慮の啓発を行ってください。
- 四、災害時要援護者支援制度について、熊本地震では機能しなかった点も見られたため、地域と市が協力し、迅速な対応が行われるよう体制整備を行ってください。
- 五、地域の避難訓練には、障がいのある方にも積極的に参加して下さるよう促し、地域で支えあう地域づくりをしてください。
- 六、知的障がい、発達障がい児・者は、日常が奪われることにとっても不安を感じます。公共の建物（学校や、公営プール、運動場など）の早期補修を行ってください。特に障害者福祉センター「希望荘」は建て直しを前提とし、他の政令指定都市にあるような関係福祉団体の事務所も入れるよう、機能を強化した総合福祉センターの建設をしてください。
- 七、公的機関の職員などに対する防災研修会で、知的障がい、発達障がいのある方々の特性を踏まえた対応に関する項目を必ず加えてください。

平成29年4月11日

社会福祉法人
熊本市手をつなぐ育成会
会長 川村 隼秋